

第2回学校運営協議会 議事録

日時：令和5年10月26日（木）15:30～17:00

場所：住吉高等学校 会議室

出席者

○学校運営協議委員

大塚耕司 委員長、森田英嗣 委員、森本哲弘 委員、篠原宏明 委員、山崎大義 委員

○学校側

中山（校長）、久堀（教頭）、田仲（事務長）稲木（首席）、内田（首席）、西本（国際文化科長）、大門（総合科学科長）、山城（教務部長）、三石（進路指導部長）、杉本（生活指導部長）、左（教育相談）、山田（総務部長 司会担当）、辻（記録担当）

1. 学校長挨拶

2. 協議

- （1）本年度の学校経営計画について（中山校長）
- （2）総合科学科の取組みについて（大門総合科学科長）
- （3）国際文化科及び国際部の取組みについて（西本国際文化科長）
- （4）生活指導部の取組みについて（杉本生活指導部長）
- （5）進路指導部の取組みについて（三石進路指導部長）
- （6）教育相談の取組みについて（左教育相談委員）

3. 質疑・協議

4. 各学校運営協議委員より指導助言
5. 校長謝辞
6. 今後の学校運営協議会の開催予定について

議事録

1. 学校長挨拶

2. 委員紹介

3. 今年度の本校の取組みについて

- （1）本年度の学校経営計画について

〈新規の取り組み〉

- ・総合学科、国際文化科の探究活動を統一して実施。
- ・地域を巻き込むことを目標として、地域の小学生を文化祭へ招待。
- ・ホームページの更新。
- ・星空教室を開催し、近隣の子供たちを招待。

〈以前の活動の復活へ向けて〉

- ・11月にベトナム研修、12月に韓国の姉妹校来校、1月に台湾の姉妹校来校。
- ・台湾へのスタディーツアーを来年度から実施するための準備。
- ・新規海外研修の準備。

（２）教育相談の取組みについて

カウンセラーによるカウンセリング（生徒一人当たり50分、計5時間）を年間15回実施しているが、深刻な課題を抱えている生徒が増えていることや、生徒の対応のみではなく、担任との情報の共有などにも時間が必要であり、現状では時間が足りていない。常駐が不可能でも、それに近い時間が必要。

今後の課題としては、虐待や、家庭、経済といった学校の努力だけでは解決の難しい問題が増えていることから外部機関との連携を更に強化する必要がある。

（３）総合学科の取組みについて

・第4期の指定に向けて校内全体で取り組む体制づくりに取り組んでおり、1年生は両学科とも同じ教材、進度で取り組んでいる。今後は、2・3年生も同様に波及することを目指している。

・大阪大学のラボツアー、フィールドワークなどを実施し、研究者としての現場の声を見学。見学後には、課題解決には理系分野の知識のみならず、幅広い知識、総合知が必要とされることを実感したコメントが多かった。

・外部との接続を目指し、240人中33人が外部での発表を実施済み。今後に繋げるために仕組み作りも兼ねて取り組んでいる。

（４）国際文化科及び国際部の取組みについて

・国際文化科

1年生全員が11月に外部会場で、英検S-CBTを受験予定。280人全員の面接指導を教員で賄うことが難しいため、生徒自身で取り組めるように府教委が開発中であるオンライン学習ツールのモデル校に登録した。今後は1年生のみならず全学年での活用を目指す。

・国際部

<国際交流行事について>

既にオーストラリア、シドニー、韓国のチョンダム高校での研修を終えた。また、今後の活動予定としては、11月には対日理解促進プログラムの高校生派遣プログラムとして、ベトナムのハノイを訪問予定である。また、その他にも、1年生を対象にフランス大使館によるEUについての講演会等が実施予定。

<留学生の受け入れについて>

12月の中旬から1月末までの約2か月間、ニュージーランドからの留学生の受け入れを予定。

<今後の課題>

劇的な円安と燃油サーチャージを含む航空運賃の高騰を受けて、どの海外研修費も高額化し、保護者と付き添い教員の費用負担や、下見の際の費用負担等が問題となっている。また、海外との交流の際に持参する記念品や手土産などの購入費、訪問を受けた際の交流費をどこから支出するのかといったことも挙げられる。以上から、安定した財源を確保することが課題となっている。

(5) 進路指導部

進路希望調査の結果、国立大学を志望する生徒が増えている。一方では、例年と異なり、外国語系の大学や学部を志望する生徒数が減っている。原因としては、世界情勢や円安の影響が考えられる。

今後の課題としては、2点挙げられる。1点目としては、合格できる実力がありながらも、自分の実力よりも1段階下の大学を選ぶ生徒が多いため、こういった生徒をどれだけ引き上げることができるのかといったことが挙げられる。2点目としては推薦に関する指導（小論文）において、思考の深度をどう深めてくのが課題として挙げられる。

(6) 生活指導部の取組みについて

〈遅刻〉

今年度より、例年の対応（4回遅刻で指導）に加えて3回目の遅刻で呼び出しての指導を実施。全体の遅刻回数は、減少傾向にある。

〈挨拶マナー〉

中間評価を実施。指導に取り組み始めてから、教員から「生徒の挨拶が増えている。」「取り組みができた。」などの報告があった。全体として大きな変化ではないが、挨拶を大切にする空気ができつつある。

〈頭髪指導〉

「考えさせる指導」に関して、意義はあるが、指導方法の意義を形骸化しないために、数年間継続して丁寧に取り組み続ける必要がある。

〈標準服〉

標準服の着用方法について「着方がだらしないのでは。」といった指摘が校内外からある。特に式典などの公式の場では、丁寧な指導が必要。

4. 質疑・協議（●質問・意見 →回答）

●国公立大学の志望が増えているのは、3学年のみの現象なのか。また、要因としては指導にあるのか。
→これまでの指導の積み重ねと、担任からの声かけが要因の1つではないか。

●SSW、SCについて

→勤務形態が学校毎によって異なる。課題が多い学校等においては常駐しているケースもあるが、本校においては、進学率>就職率のために課題が多い学校に比べると配当数が少ない。去年からSSWが配当された。

●時間外勤務減少に関しての具体的な取り組みは。

→具体的な取り組みとしては、配布文書のペーパーレス化やGoogleフォームを用いた欠席連絡（始業・終業は留守番）と、学校からの連絡に関してはメール配信を利用。また、一斉退庁日は、自習室と図書室を閉室し、16:45にはチャイムが鳴るように設定している。

●探究活動における両学科の現在の成果は。

→9月末に探究フェスティバルを実施し、両学科で成果を発表して批評した。また、1年生に関してだが、

個人での取り組みは落ち着いたため、グループでの活動へと移る。具体的な実施形態としては、興味のある内容に関してアンケートをとり、興味関心の近い生徒同士で10グループに分けて取り組む予定である。両学科混在での取り組みのため、互いに良い影響があるのではと考えている。

●研修旅行（ベトナム）の活動の前後での展開としては

→訪問の際に日本とベトナムの友好50周年を記念した壁画を描く。今回の活動をアジアフィールドスタディ復活の試金石にと考えている。以前は治安や医療の体制とコロナから中止を決定した。そのため今回の研修旅行を通じて生徒と教員で確かめる。また、活動後には、アクションプランを作成し、大阪観光局で発表を予定している。

6. 校長謝辞

7. 今後の学校運営協議会の開催予定について

第3回 令和6年 2月22日（木）15時30分～17時